

1. 調査の概要

- 調査対象
2017 年度の在学生全員（2017 年度入学生は除く）

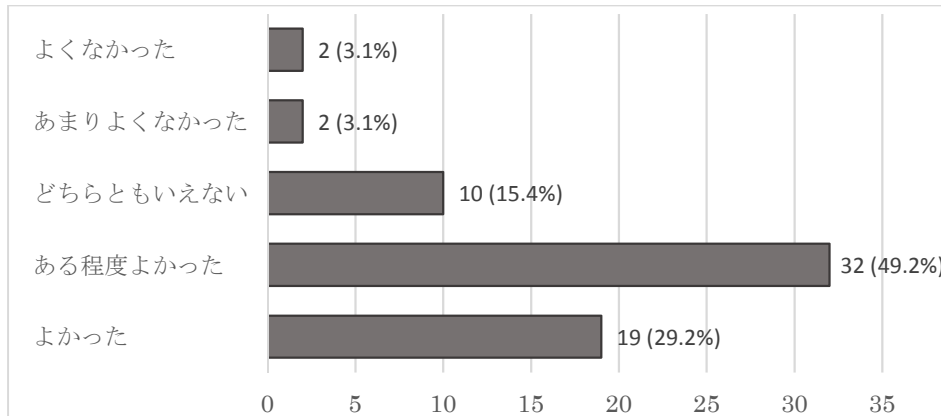
- 調査期間と方法
3 月 30 日に実施した 2017 年度の授業科目オリエンテーションの際に調査票を配布し、その場で回答してもらった

- 主な調査項目
 - 入学してよかったか
 - 各種満足度
 - 学生生活について
 - 授業外学習や学習状況について
 - 留学や海外プログラムについて
 - 将来の職業について

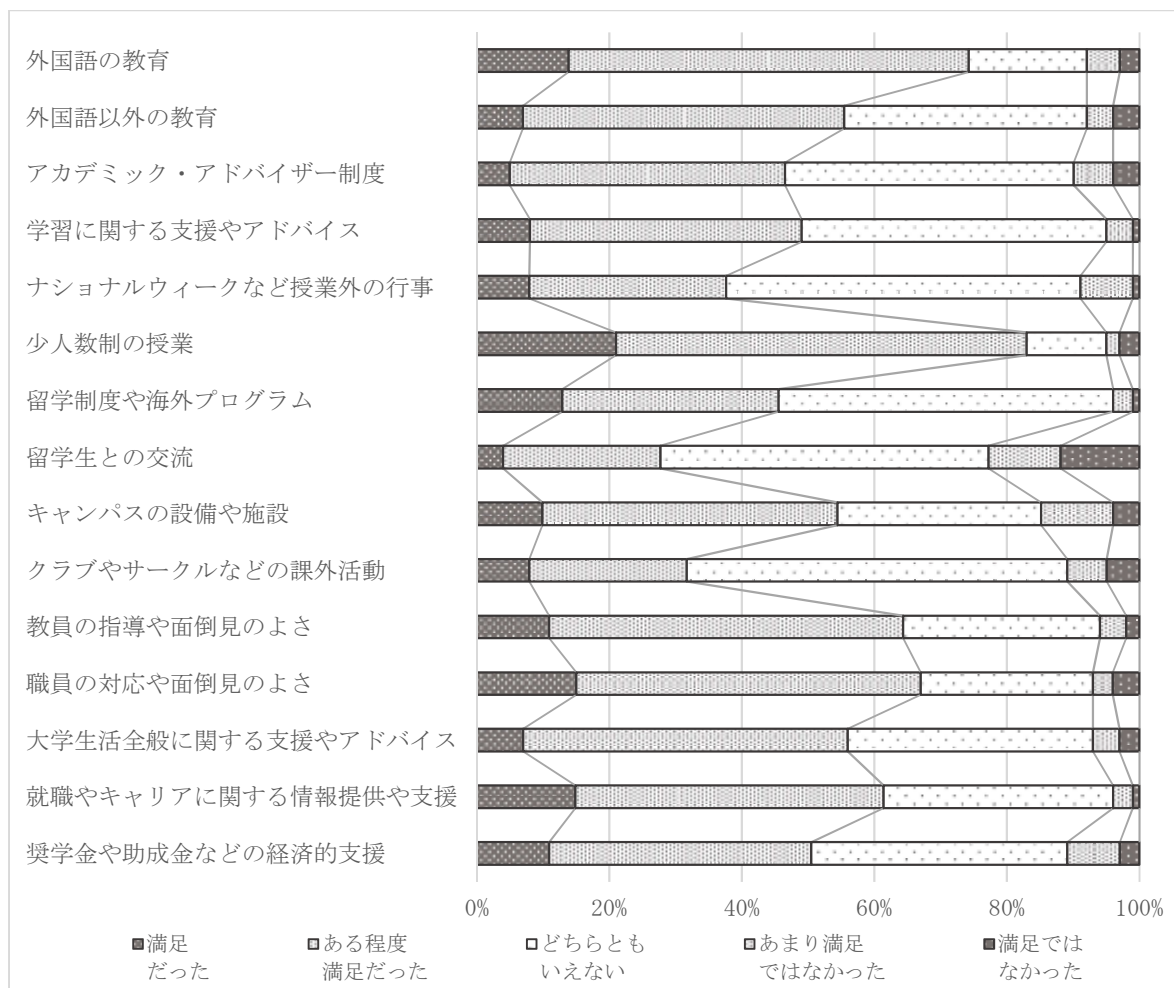
- 回収状況
短期大学の 2017 年度の在学生数 148 名のうち、68.2%にあたる 101 名から回答を得た。

2. 大学に対する満足

京都外国語短期大学に入学してよかったかどうかをたずねると、多くの学生が「よかった」と思っていることがわかる（図1）。大学に対する各種満足度をたずねると、「少人数制の授業」に満足している学生が多いことがわかる（図2）。また、本学の教育の柱である外国語の教育についても、8割以上の学生が満足だと回答している。その他には、「教職員の面倒見のよさ」や「就職やキャリアに対する情報提供や支援」などへの満足度も比較的高いようである。



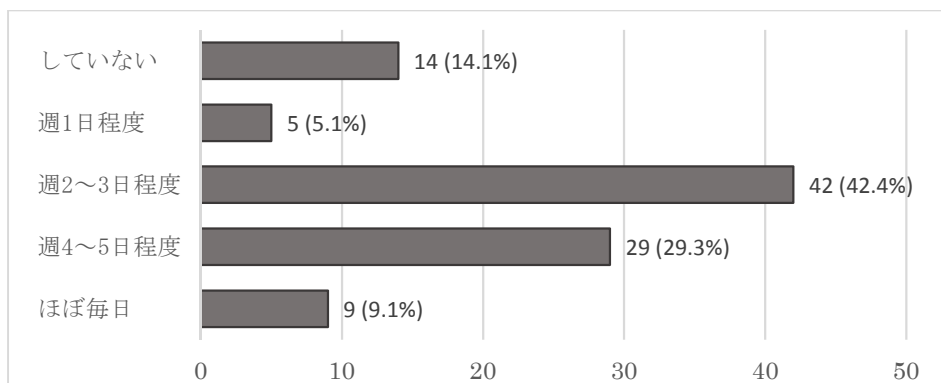
【図1】 京都外国語短期大学に入学してよかったか



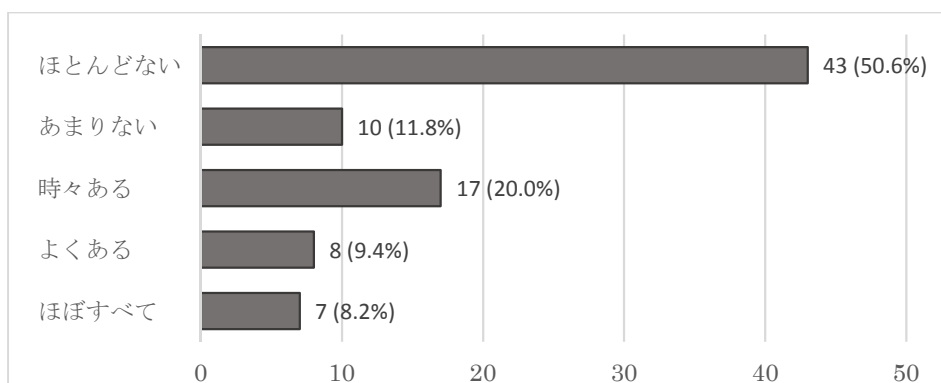
【図2】 大学に対する満足

3. アルバイト

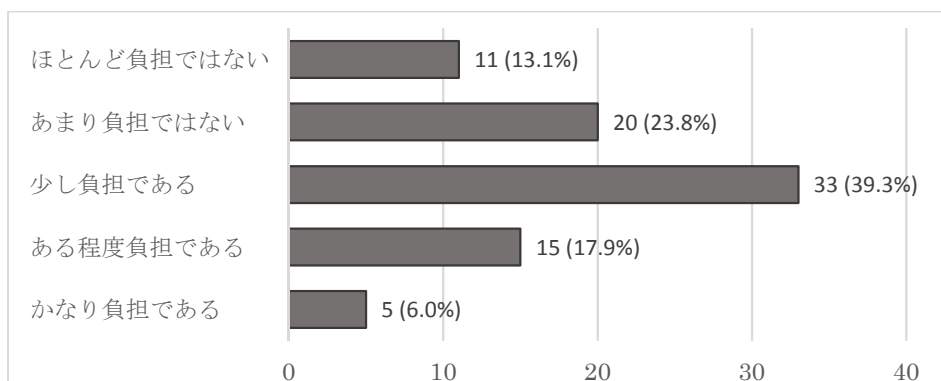
アルバイトの頻度や負担についてたずねた。多くの学生は、何らかのアルバイトを行っており、その頻度は週に2~3日程度が多いようである(図3)。午後9時以降のアルバイトの頻度はそれほど多くはないようである(図4)。短期大学の授業は夜間が中心となるため、昼間にアルバイトを行う者が多いということだろう。アルバイトの負担感をたずねると、アルバイトをしている学生の約2割強がある程度以上の負担を感じていることがわかる(図5)。アルバイトの負担感は、アルバイトの頻度とはあまり関係はないが、夜9時以降のアルバイトの頻度が多いほど負担を感じる傾向がある。授業後にアルバイトを行っている学生が大きな負担を感じていると考えられる。



【図3】アルバイトの頻度



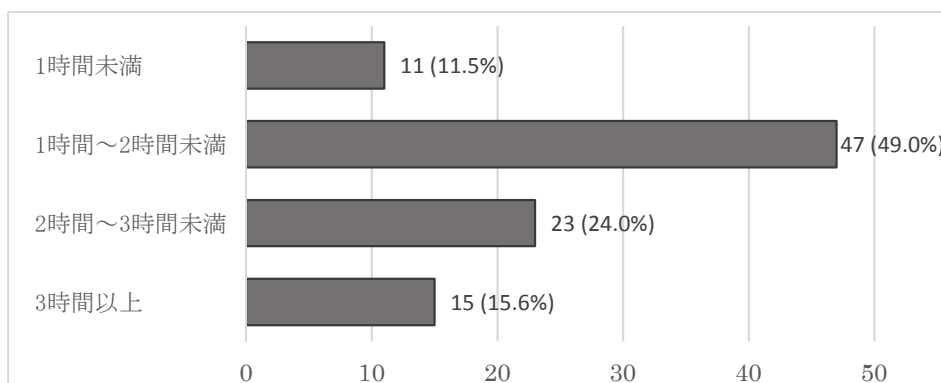
【図4】午後9時以降のアルバイト



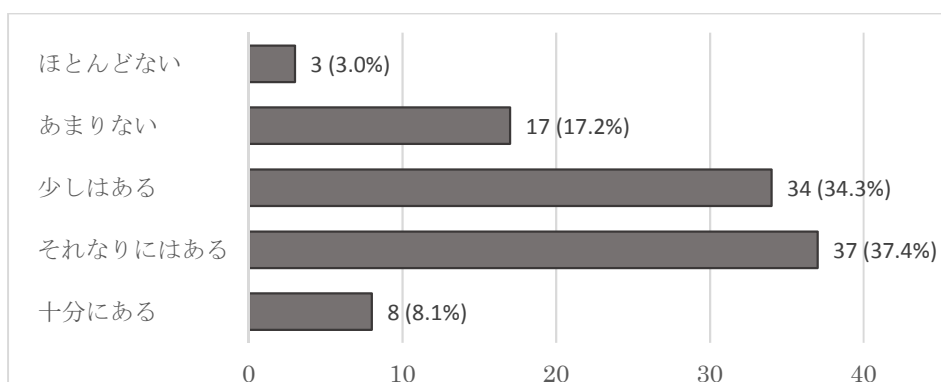
【図5】アルバイトの負担感

4. 授業外学習

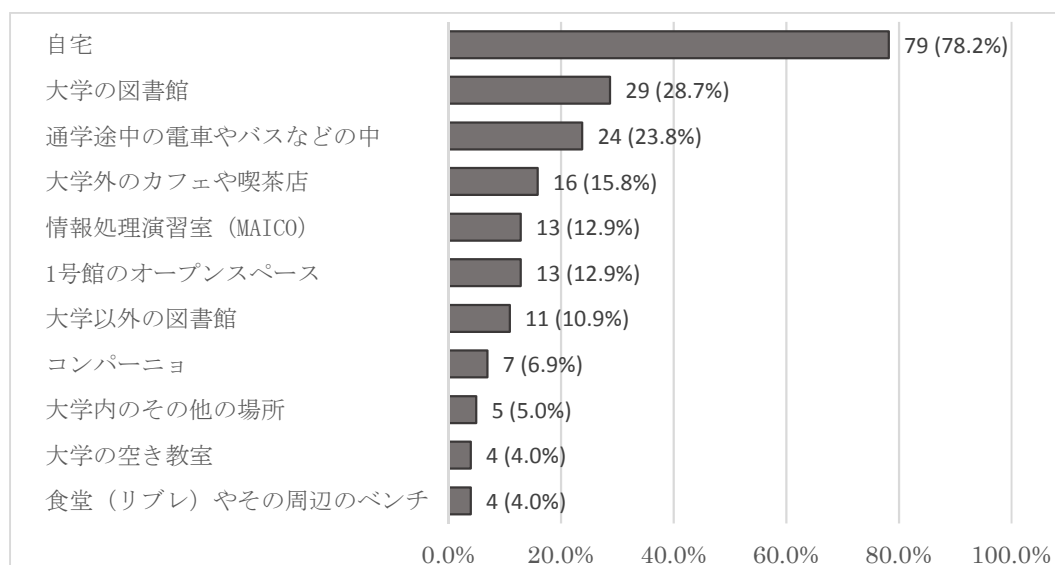
授業外の学習について、授業期間中の平均的な1日当たりの学習時間をたずねたところ、最も多いのは1時間~2時間程度で、全体の半数を占める（図6）。全体の授業外学習時間の平均値は1.59時間、標準偏差は0.93となる。授業外学習の時間が十分あるかどうかをたずねると、全体的にはそれなりに学習時間は確保されているようである（図7）。授業外学習を行う場所については、自宅が他を引き離して多いことがわかる（図8）。大学内では、図書館で学習することが多いようである。



【図6】授業がある期間の1日当たりの平均的な授業外学習時間

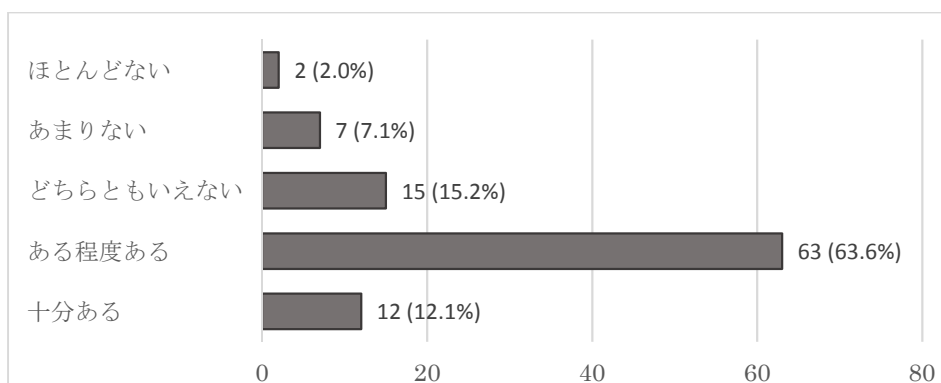


【図7】授業外学習の時間は十分あるか

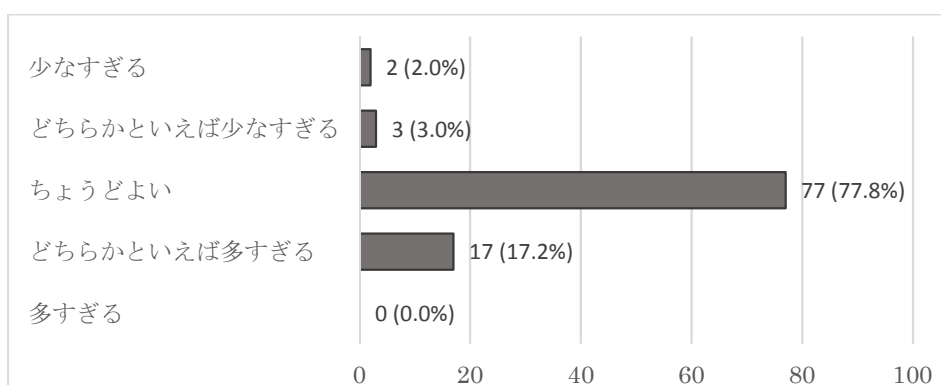


【図8】授業以外で勉強によく利用する場所

大学内に授業以外で勉強できる場所が確保されているかどうかをたずねると、「ある程度ある」との回答が多い（図 9）。授業外学習に利用できる場所が豊富にあるというわけではないが、それなりに学習スペースはあるようである。授業外学習の中心となる授業の課題や宿題、予復習の量や負担の大きさは、大半の学生が「ちょうどよい」と回答しており、学生の負担という点では適切な量に調整されているといえる（図 10）。



【図 9】大学内に授業以外で勉強できる場所があるか



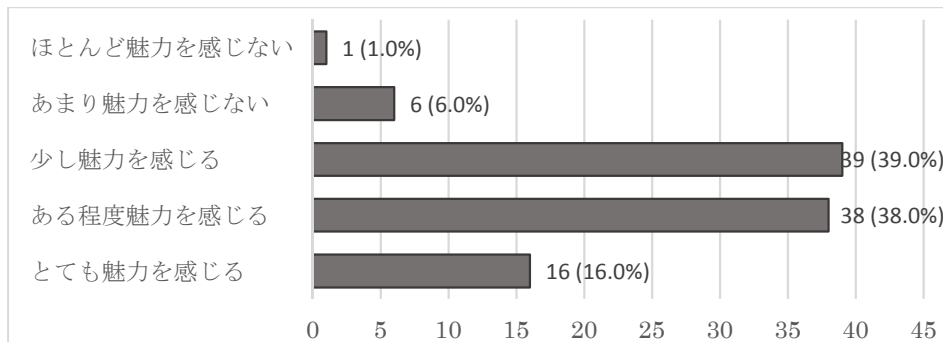
【図 10】授業の宿題や課題、予復習の量や負担の大きさ

5. 留学・海外プログラム

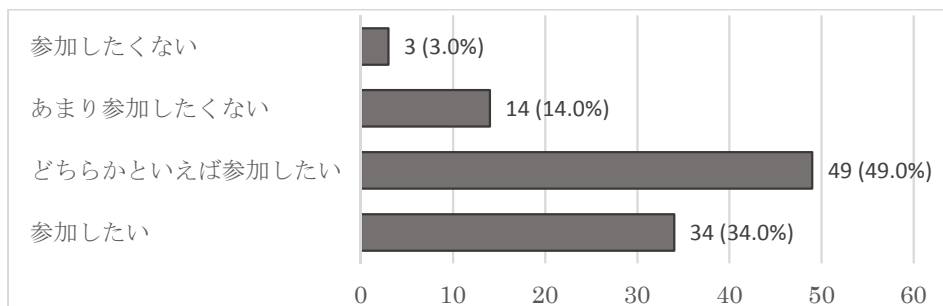
外国語大学の教育プログラムとして重要な位置づけにある留学や海外プログラムについてたずねた。大学が提供する留学や海外プログラムの魅力については、多くの学生が一定の魅力を感じているようである（図 11）。また、大半の学生はこれらのプログラムに参加したいと考えている（図 12）。留学や海外プログラムの情報にどれくらい接触するかをたずねると、中間の選択肢である「ときどき見聞きする」という回答が多く、それよりももう少し頻繁に接触する学生も比較的多い（図 13）。留学や海外プログラムの情報は学生にある程度伝わっているようである。

これらの情報を得る手段としては、大学の Web サイトや学生向けのお知らせなどを掲示している「WebCampus」への言及が多い（図 14）。留学や海外プログラムの情報を主に提供する国際部に行ったり、先生などに相談するといった積極的な行動はあまりみられないようである。留学や海外プログラムに関する大学の情報提供や支援が充実しているかどうかをたずねると、5段階の評定で中間の選択肢が多いことから、ある程度は支援や情報提供があるという印象はあるものの、特段充実していると感じられているわけではないようである（図 15）。大学が提供する留学や海外プログラムについて、自分のニーズやレベルに合ったものがあるかどうかをたずねる

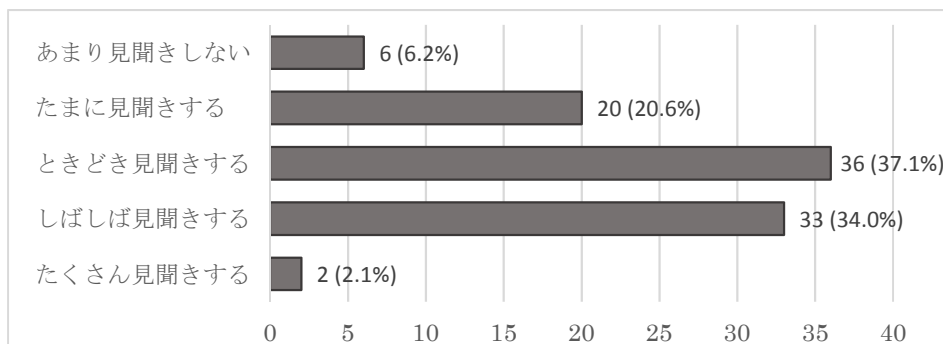
と、「どちらともいえない」という回答が多くなる（図 16）。全体としてみれば、ポジティブな回答が若干多いものの、多くの学生はこれらのプログラムが自分のニーズやレベルに合っているか判断できないと考えられる。留学や海外プログラムの情報をどのように提供するのかを検討していく必要があるかもしれない。



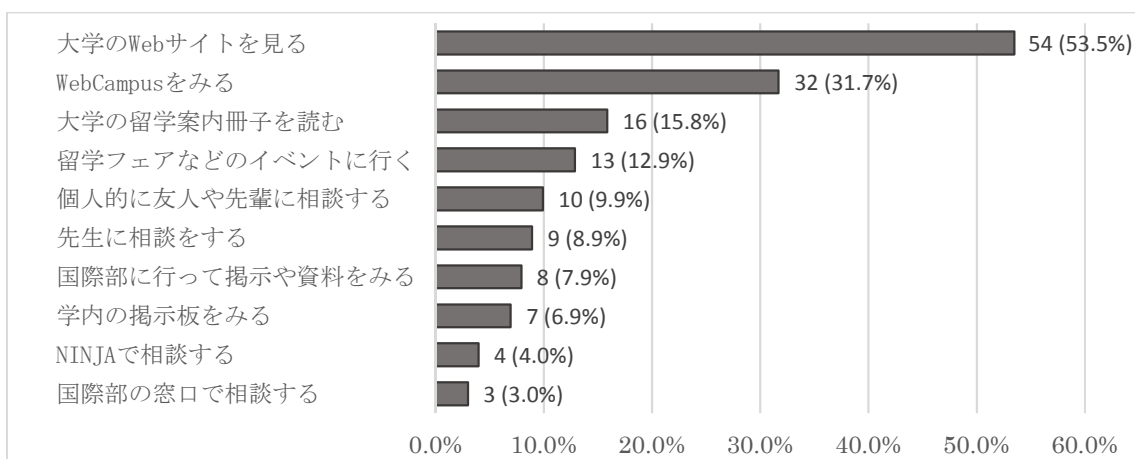
【図 11】 大学が提供する留学や海外プログラムの魅力



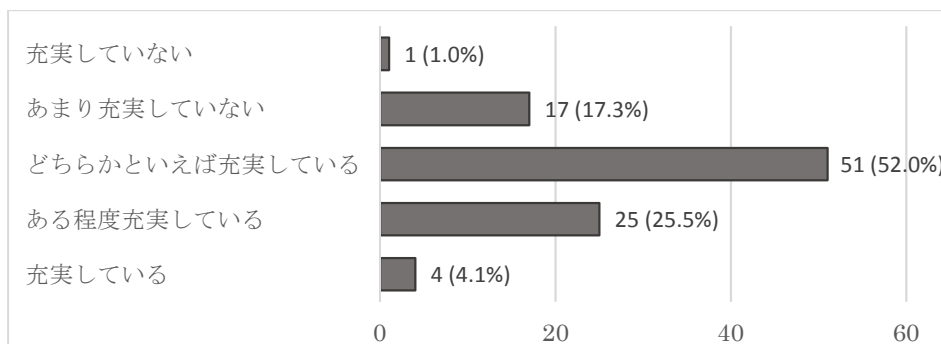
【図 12】 大学が提供する留学や海外プログラムに参加したいか



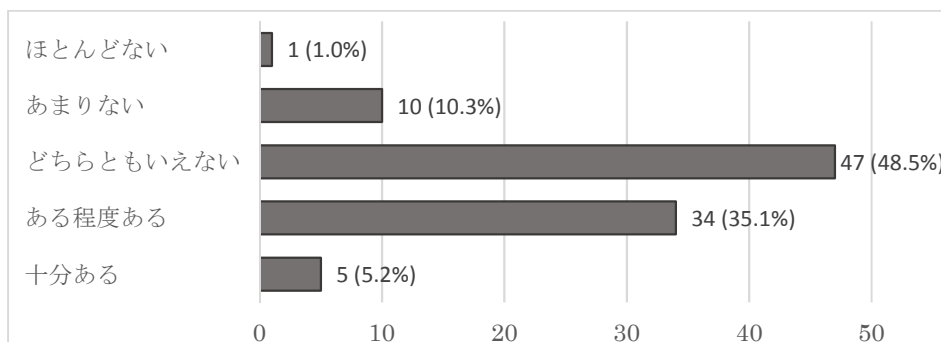
【図 13】 留学や海外プログラムの情報への接触



【図 14】 留学や海外プログラムの情報を得る手段



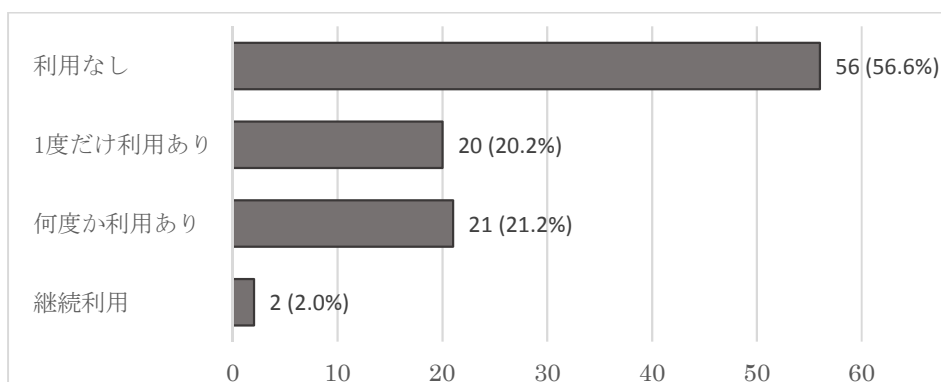
【図 15】 留学や海外プログラムの情報提供や支援は充実しているか



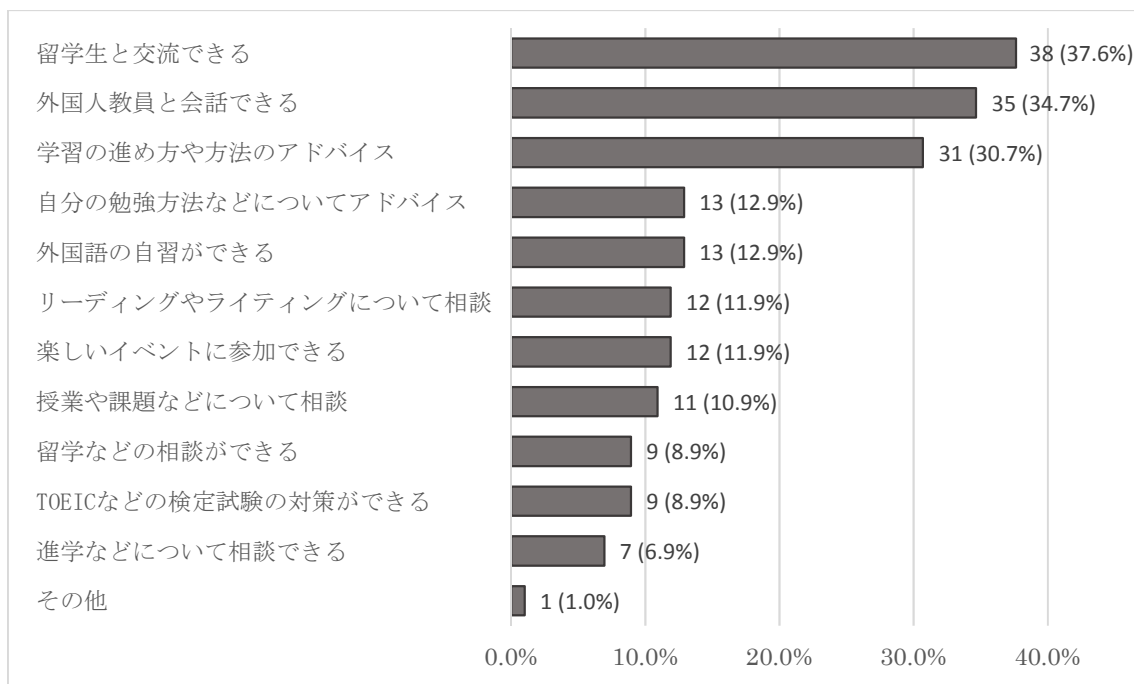
【図 16】 自分のレベルやニーズに合った留学や海外プログラムがあるか

6. 外国語自律学習支援室「NINJA」

本学では、学生自身が主体的に効果的な外国語学習を行うことができるように、自律的な楽手者の育成を目指して、その支援を行うために外国語自律学習支援室「NINJA」を設置している。NINJA について利用経験や頻度をたずねると、半数以上の学生が一度も利用したことがなく、継続的に利用している学生はほとんどいない（図 17）。NINJA がどのような施設かを聞くと、「留学生と交流できる」「外国人教員と会話できる」など、外国人と交流できる場所だというイメージを持つ学生が多い（図 18）。同時に、NINJA の主たる機能である「学習の進め方や方法のアドバイス」への言及も多いことから、ある程度は設置の趣旨が伝わっているようである。NINJA に対するイメージは、利用頻度によって差はみられない。大半の学生があまり利用したことがないか、あっても何度かしか利用したことがないため、両方でイメージが大きく変わらないのだろう。



【図 17】 外国語自律学習支援室「NINJA」の利用

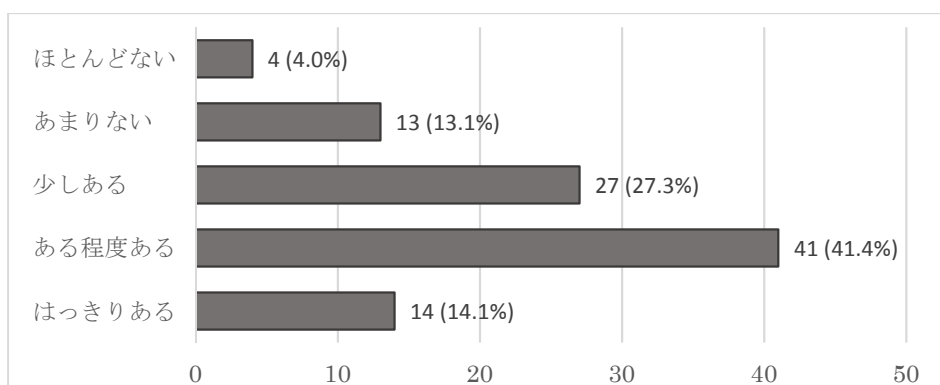


【図 18】外国語自律学習支援室「NINJA」のイメージ

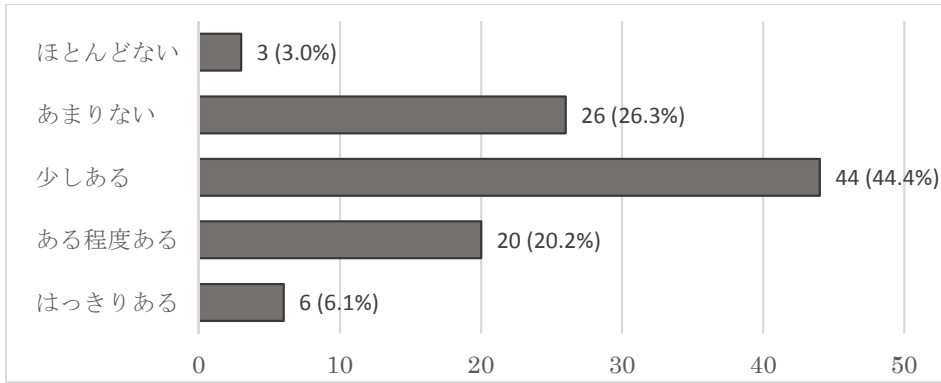
7. 学習の目的や目標と手応え

大学での勉強や将来の進路において、具体的な目標があるかどうかをたずねたところ、全体としては多くの学生は何らかの目標を意識しているようである（図 19）。大学の勉強に対する手応えや充実感については、5段階の評定の間である「少しある」との回答が多いが、「あまりない」との回答も比較的多い点も気になる（図 20）。しかし、大学での勉強は何らかの形で将来に役立つものと考えられているようである（図 21）。また、勉強に手応えを感じている学生ほど、大学の勉強が将来につながると感じる傾向がある。

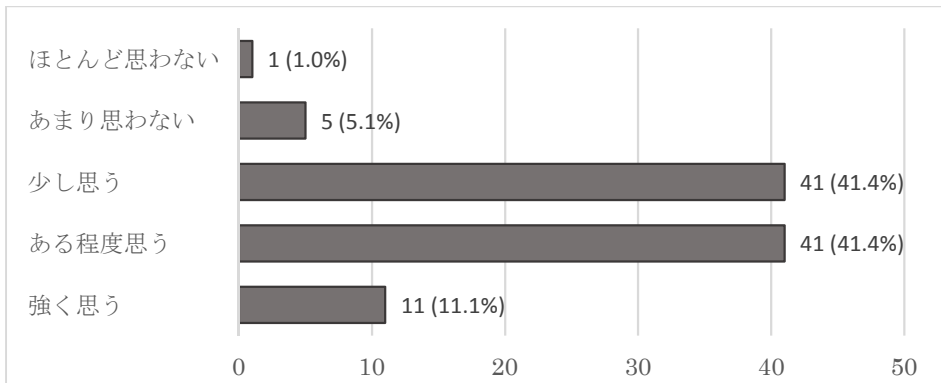
大学の勉強に関して、この1年間で成長できたかどうかをたずねると、「少し成長できた」という回答が多く、「ある程度成長できた」が続く（図 22）。勉強に対する手応えや充実感が全体として感じられない中で、成長の実感が得られていないようである。また、カリキュラムが自分に合っているかどうかについても明確に肯定的な回答は少ない（図 23）。全体としてみれば、大学での勉強にあまり手応えがなく、成長の実感が持ちきれない学生が多い傾向があり、原因の追究と改善が必要だろう。



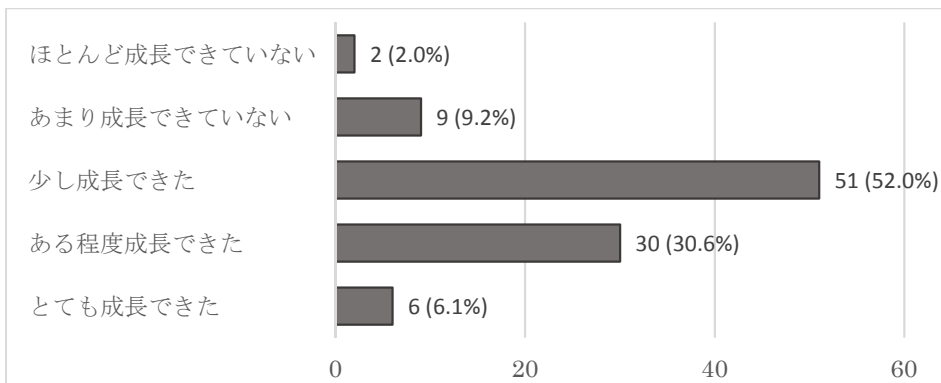
【図 19】勉強や卒業後の進路において具体的な目標があるか



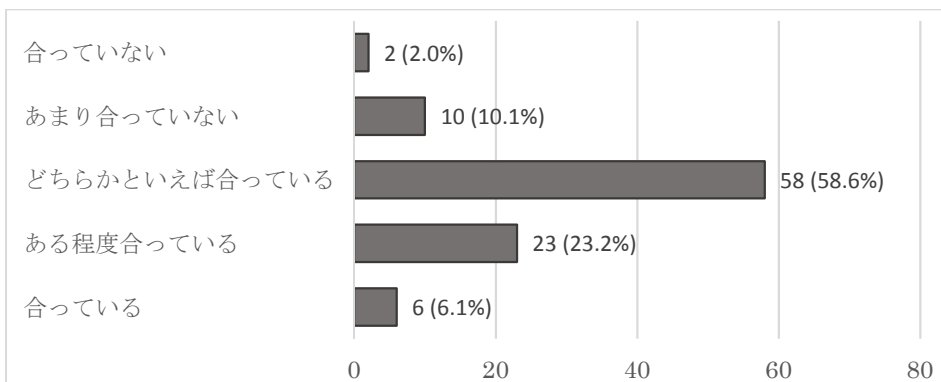
【図 20】大学の勉強について手応えや充実感があるか



【図 21】大学の勉強が将来につながると思うか



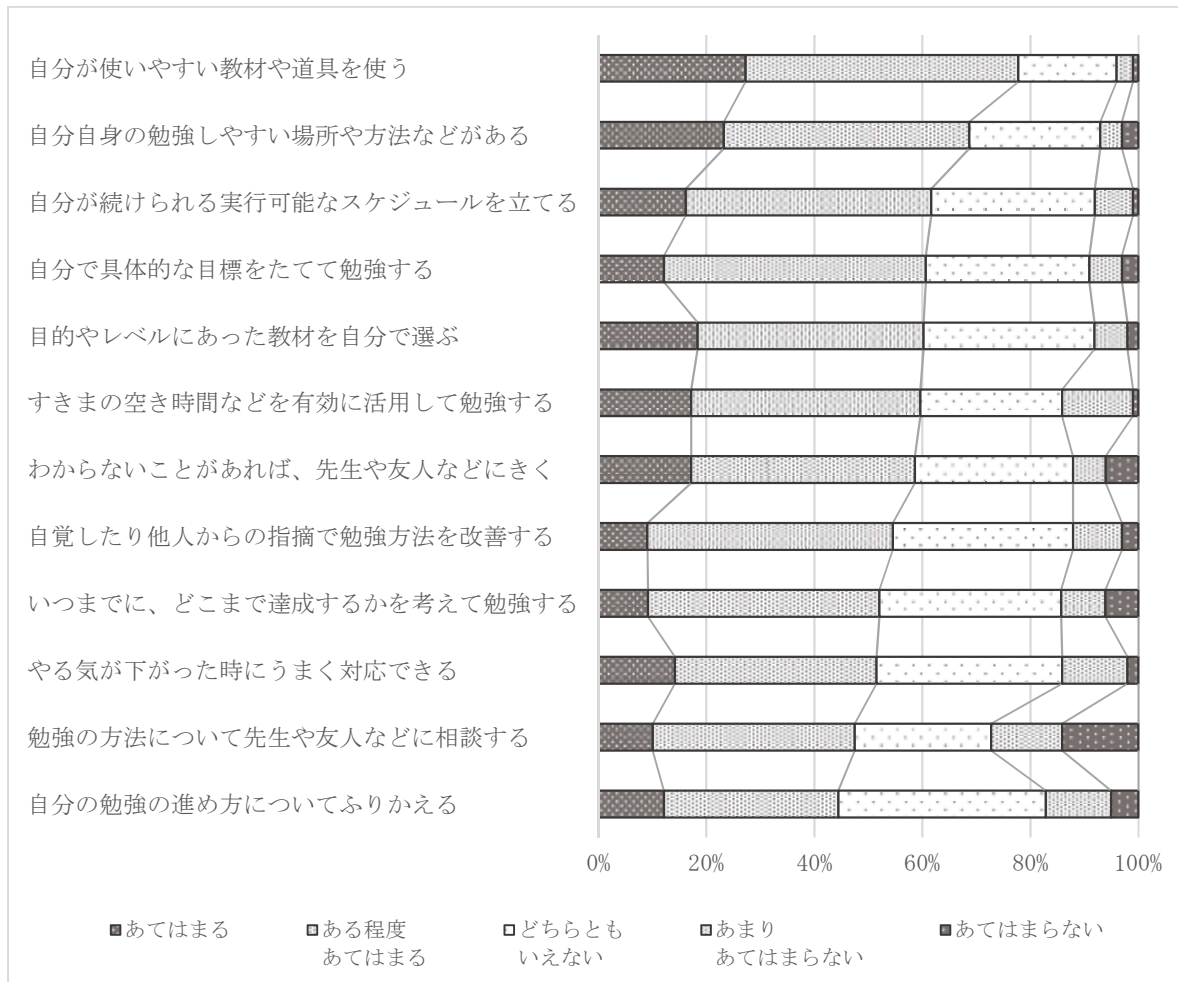
【図 22】大学の勉強についてこの1年間で成長できたか



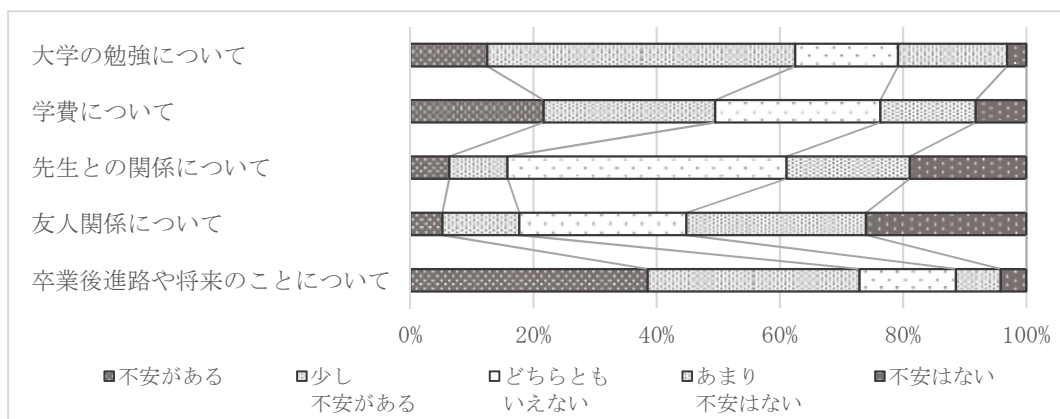
【図 23】授業やカリキュラムが自分に合っているか

8. 学習行動・大学生活に対する不安

学習行動についてみると、教材や勉強の場所、方法などの工夫をしている学生は比較的多いが、勉強の進め方をふりかえり、自分の学習方法を客観的に見直して改善するといった自己調整的な学習行動は相対的に少ないようである（図 24）。大学生活に対する不安をみると、勉強に関する不安や将来の進路、学費に対する不安を抱える学生が多い（図 25）。



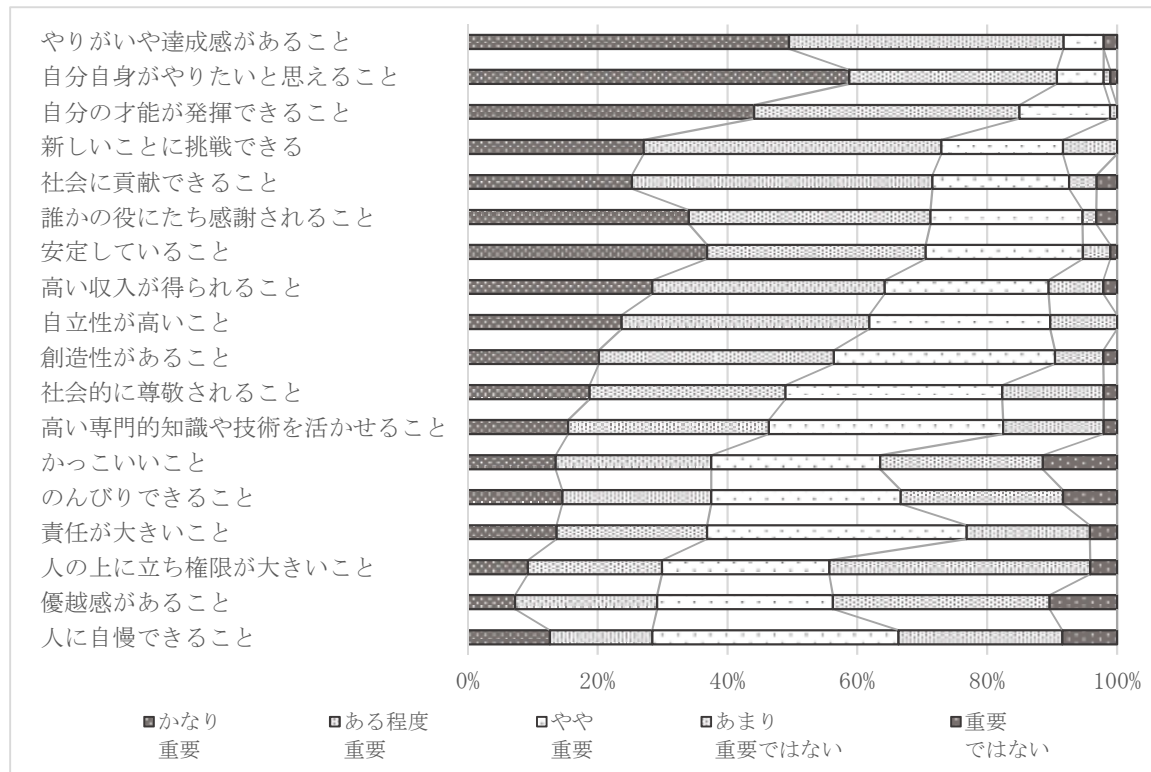
【図 24】学習行動



【図 25】大学生活に対する不安

9. 職業選択において重視すること

将来の職業を選択する際に、どのような点を重視したいかをたずねた。多くの学生が職業選択において重視しているのは、「やりがいや達成感」「やりたいこと」「自分の才能を発揮できる」など、自己実現的な価値である（図 26）。続いて、「社会貢献」や「誰かの役に立つ」などの価値が重視されているようである。これらに対して、「人に自慢できる」「優越感」といった他者に対する見栄、「責任」「人の上に立つ」など出世にはあまり関心がないようである。



【図 26】 職業選択において重視すること